

昨年度の決算では300万の補助金の内250万円が宴会の飲み食い代に支出されており、役員会でも13人が15万円の飲食を補助金から支出しており、補助金で親睦会をするために作られた団体と言われても仕方がないのではないだろうか。

議会質問

2019年
3月5日

3月議会一般質問より抜粋

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。
先月2月24日、アメリカ軍の新しい基地を造るための沖縄県名護市辺野古の沿岸部埋め立ての賛否を問う県民投票があり、投票した**72%・43万人**の人が**埋め立て反対**の意思表示をされました。
国は沖縄県民の願いを尊重し、即刻工事を中止しなければならぬと考えます。

残念ながら、私の質問時間が、残りたったの7分しかありませんので、ここで質問に入ります。

※市政与党の立場に立つ議員が、市長や理事者に付度し、会派に属さない議員の一般質問時間を年間僅か一時間に制限させているため!!

野志市長3期目最大の選挙公約だった

「中学校卒業までの医療費無料化」
実施のための予算が
計上されていないことについて

梶原議員

野志市長3期目の当選以降2度目の議会、しかも今議会は2019年度の予算議会であるにもかかわらず、「子どもの医療費無料化」の(調査費すら)予算化がなされていない理由について。

①市長が「子どもの医療費無料化」の公約を決断した時期はいつ頃で、今まで7億円もかかるからと拒否をしていたものを転換した理由は何か。

梶原議員

野志市長は県内20の市町の中で、本市だけが無料化を実施していない理由を、「県からの乳幼児医療費助成の補助率が他の市町が1/2に対し、本市は1/4しかなく予算的に厳しい」と県からの補助率の低さ、いわば中村県政に責任転嫁してきたのではないか。

子ども子育て担当部長

県の補助率引き上げに関する要請についてですが、補助率が引き下げられた平成19年度以降、繰り返し要望しており、現在、子ども医療費助成のさらなる拡充に向けた本市の制度を検討しているところであり、知事の発言を踏まえ、詳細が決まれば、6月議会までのできるだけ早い時期に、改めて正式に知事へ要望したいと考えています。

中村知事は、「松山市から正式要請が無い」と発言したが、野志市長は「10年前から毎年繰り返し要望している」と答弁、どちらが正しいのでしょうか??



梶原ときよし(ネットワーク市民の窓)

3月議会では、一般質問の他、予算と人事の討論で3度登壇しました。



- ② 公約実現のための調査を開始した時期はいつ頃なのか。
- ③ 7億円の財源根拠を示せ。
- (まさか根拠も確定させず公約にしたのでは)
- ④ 結局、市長が生煮えの公約を放言したために予算化が間に合わなかったということか、理由を問う。

子ども子育て担当部長

- ① 公約を決断した時期についてですが、出馬表明した平成30年10月3日の直前の頃です。
- ② 次に、公約実現のための調査を開始した時期は、3期目の公約が示された10月頃からです。
- ③ 財源根拠についてですが、県補助金については、子ども医療費助成の拡充の制度を決定した後、知事に対して改めて正式に、乳幼児医療費助成の補助率引き上げを要望することになっています。
- ④ 次に、予算化についてですが、将来にわたり、持続可能な制度とするために、現在は、関係機関との協議をしながら詳細な制度設計を行っているところであり、予算を計上するのは、制度の詳細が決まってからになります。

愛媛県が、本市に対する補助金を、他の市町並に引き上げたとしても2億円しかなく、残り5億円の財源根拠が明確にされていない。



野志市長が2010年の

最初の市長選挙から3度に亘り
公約とした水問題

「西条市黒瀬ダムからの松山分水」
について

梶原議員

野志市長になってから、西条市に対して正式に文書で松山への分水をお願いしたことはあるか、時期と内容を時系列で示せ。

危機管理・水資源担当部長

野志市長就任後は、2018年11月に愛媛県からの6つの提案に対する回答書を提出した上で、分水への協力を要請しています。

2010年11月に就任した野志市長が、初めて西条市を訪問したのは、2017年の3月議会。梶原が、この件を質問し指摘した後でした。(就任7年目で初めて西条市へ行った) 文書での正式要請は、何と就任8年目の行動でした。本当にやる気がある行動とは思えません。



西条市 黒瀬ダム

梶原議員

2017年 9月議会の一般質問で私が全国の中核市48市、あるいは、県内20市町の中でも最低な本市の子どもの医療費助成を改め、中学校卒業までの無料化を求めたとき、また、同年12月議会でも松山市歯科医師連盟から出された「子ども医療費助成制度の拡充について」の請願が全会一致で採択されたときにも、野志市長が真剣に本市の重要な政治課題と捉えていたなら、今議会での予算提案は十分にできたのではないか。

結局、市長の公約である「中学生までの医療費無料化」の実現はいつ頃できるのか、本年4月から実施する方法はないかを含め、これから実施までのプロセスを示せ。

子ども子育て担当部長

無料化の時期等については、現在は、本市が考える制度の枠組みを基に、関係機関と実施に向けた必要な事項を協議しているところで、制度の詳細を決定した後、6月議会にも関連する予算等を提案したいと考えています。

その後、システム改修や、受給者証の発行に伴う事務、市民や医療機関への周知など、準備のための期間が必要となり、その期間は制度の内容により変わってきます。

実施時期は、(来年)2020年1月以降か?!
窓口負担のない制度にするためには準備期間を要するが、それまでの間、現在他市町の県外受診の場合等で行われている、窓口でいったん支払い、後日給付を受ける償還制度でつなげば即実施が可能である。

梶原議員

西条市からの松山分水公約が破綻した場合の責任を市長はどう考えているのか。

危機管理・水資源担当部長

新規水源確保に向け取り組むという公約については、今後実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、責任問題には当たらないと考えています。

西条市からの松山分水を最大公約に掲げた、新規水源確保の公約破綻が決定的となった事実。もともと本市にとっては不要な分水とは言え、この間、10億円以上かけた経費についても、なんらかの責任表明が必要ではないでしょうか。

松山市定例市議会(年4回)に9年間、36議会連続登壇を続けています。

※2019年3月現在(連続登壇記録更新中)

2010年の松山市議会議員当選以来、全定例議会に質問あるいは討論を行ない、一問一答方式の導入をさせるななど、これまでのセレモニー化した議会に風穴を開け続けています



「一問一答方式」の導入で緊張感のある議会に



パネルを使って分かりやすい質問



答弁する市長

